

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2017年9月)

発表日: 2017年10月12日(木)

～原油価格の上昇が企業物価を押し上げ～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 齋藤 麻菜

TEL: 03-5221-4573

(単位: %)

		国内企業物価		最終消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
2016	8月	▲ 0.3	▲ 3.8	▲ 0.1	▲ 2.1	▲ 0.3	▲ 4.0	▲ 1.2	▲ 13.7	▲ 2.0	▲ 20.4
	9月	0.0	▲ 3.4	0.2	▲ 1.8	0.1	▲ 3.5	0.3	▲ 11.0	1.0	▲ 16.1
	10月	0.3	▲ 2.6	0.3	▲ 1.7	0.2	▲ 2.8	1.4	▲ 8.9	1.1	▲ 14.1
	11月	0.3	▲ 2.3	0.1	▲ 1.4	0.4	▲ 2.4	2.9	▲ 6.9	5.8	▲ 9.8
	12月	0.7	▲ 1.2	0.5	▲ 0.6	0.7	▲ 1.3	4.7	▲ 1.8	5.0	▲ 2.8
2017	1月	0.6	0.5	▲ 0.2	0.3	0.7	0.6	0.1	1.0	1.7	4.3
	2月	0.3	1.1	0.1	0.5	0.3	1.2	▲ 0.3	2.7	0.4	9.6
	3月	0.2	1.4	0.3	0.8	0.2	1.6	0.4	3.9	0.8	12.0
	4月	0.2	2.1	0.1	1.2	0.3	2.3	▲ 2.0	3.1	▲ 2.0	10.8
	5月	0.0	2.1	▲ 0.5	0.7	0.0	2.3	1.0	4.5	1.4	12.4
	6月	0.1	2.2	0.1	0.5	0.1	2.5	▲ 0.7	5.9	▲ 1.7	11.5
	7月	0.0	2.5	0.1	1.0	0.0	2.8	1.2	7.8	0.1	11.8
	8月	0.1	2.9	▲ 0.2	0.9	0.1	3.2	▲ 0.5	8.6	▲ 1.2	12.6
	9月	0.2	3.1	0.1	0.8	0.2	3.3	1.1	9.4	1.8	13.5

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

(注) 国内企業物価及び国内企業物価(連鎖指数)は夏季電力料金調整後の値。

○9月の国内企業物価は前月比+0.2%

日本銀行より発表された2017年9月の国内企業物価指数は前年比+3.0% (コンセンサス: 同+3.0%、レンジ: 同+2.7%~+3.2%)、前月比では+0.2% (コンセンサス: 同+0.2%、レンジ: 同▲0.1%~+0.4%)と上昇し、コンセンサス通りの結果となった。

夏季電力料金調整後の前月比の内訳をみると、プラスに寄与したのは、石油・石炭製品(前月比: +1.1%、前月比寄与度: +0.06%ポイント)や非鉄金属(前月比: +1.8%、前月比寄与度: +0.05%ポイント)などであった。石油・石炭製品については、原油価格の上昇により、ガソリン価格や液化天然ガスの値上がりが見られ、非鉄金属は、中国への需要期待などもあり、国際市況が前月に引き続き上昇した影響から、銅関連財を中心に上昇し、国内企業物価の押し上げに寄与している。そのほか多くの財において前月比プラスとなるなど、国内企業物価は上昇を続ける結果となった。また、前年比では昨年が低水準であったこともあり、08年以來の3%超えとなった(消費税の影響除く)。原油や銅など商品市況の上昇を受け、国内企業物価は高い伸びとなっている。

○原油価格上昇を受けて輸入物価はプラス推移

9月の輸入物価は契約通貨ベースで、前月比+1.2%と2ヶ月連続の上昇となった。原油価格の上昇を背景に石油・石炭・天然ガスがプラスに寄与し、輸入物価を押し上げた。また、9月のドル円相場が前月比で円安となったことから、円ベースについても同+1.8%と上昇に転じている。

原油価格は、OPECの減産遵守や世界需要見通しの上方修正が行われたことを受けて、原油の需給が引き締まるとの見方が広まり、9月の原油価格は50ドル/バレルを抜けて堅調に推移した。10月入り後も50ドル/バレルを挟んで推移している。こうした状況を踏まえると、10、11月分についても、輸入物価は、原油価格の押し上げにより上昇が続くことが想定される。

○消費財の国内品は前月比+0.1%、前年比+0.8%

需要段階別指数（国内+輸入）をみると、素原材料は前月比+2.7%（前年比+21.2%）、中間財は同+0.5%（同+5.9%）、最終財は同+0.2%（同+1.5%）と全段階において上昇した。消費者物価と関連の深い消費財の国内品についても、前月比+0.1%（前年比+0.8%）と小幅上昇となっている。原油や銅といった原材料価格の値上がりによって素原材料が前月比で上昇した。今後も川下への上昇圧力が働くことで、国内消費財は今後も緩やかな上昇基調が続くだろう。

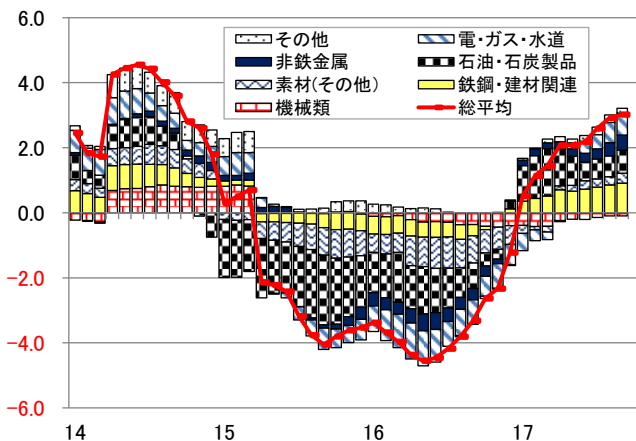
○企業物価指数は目先上昇が続く見込み

以上のように、9月の国内企業物価は、原油や銅などの国際商品市況の上昇を受けて、前月に引き続きプラスでの推移となった。

国際商品市況をみると、想定以上に堅調に推移している。原油については、前述の通り、目先は押し上げ寄与になるだろう。非鉄金属についても、銅価格は中国需要の剥落から低下に転じると予想していたが、10月入り後も高水準を維持している。これらを踏まえると、目先の国内企業物価は上昇基調が続く見込みだ。

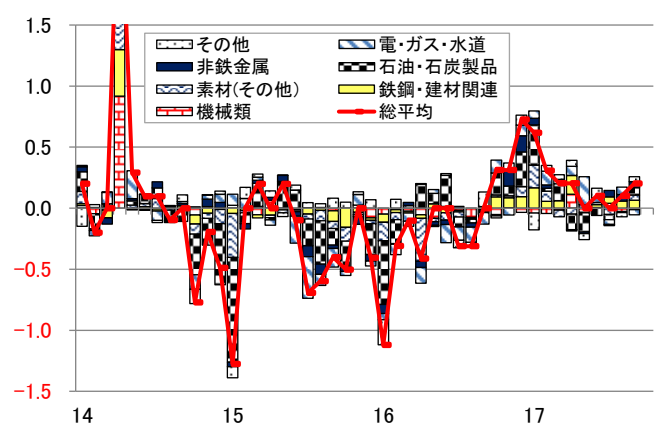
もっとも、年明け以降も上昇基調を維持できるかどうかは不透明感が強い。そもそも、原油については、米国の生産余力を考えると上値が重い状況に変わりはない。また、銅価格についてもこれまでの上昇が急だったこともあり、時期こそ後ずれしたもの、価格調整が起きる可能性が高いだろう。以上を踏まえると、目先の国内企業物価は上昇基調が続くものの、非鉄金属などの調整により、伸びは徐々に鈍化してくると予想する。

国内企業物価前年比寄与度分解(%)



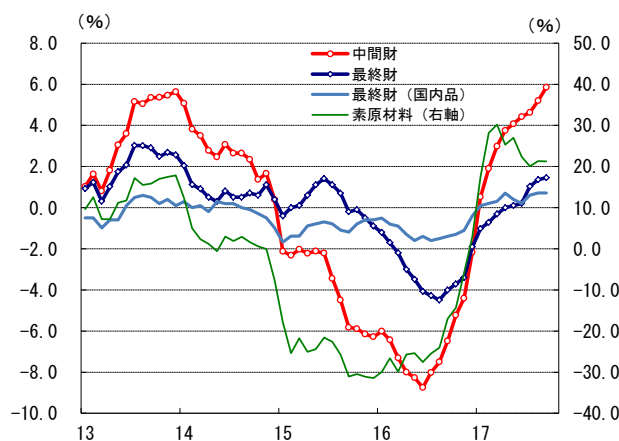
(出所) 日本銀行「企業物価指数」

国内企業物価前月比寄与度分解(%)



(出所) 日本銀行「企業物価指数」
(注) 夏季電力料金調整後の数値。

需要段階別指数（国内+輸入、前年比）



(出所) 日本銀行「企業物価指数」